



金村経営支援員

代表社員 倉橋 税さん

合同会社クロスリビング

経営支援員 と 二人三脚



経営支援員とともに、自社の課題解決や発展に取り組む小規模・中小企業をご紹介します。

助け合いの「ケレケレ文化」をサービスに 障がい者の自立を支援するグループホーム

地域の「受け皿」として 需要を伸ばす

20代後半の2年間、NCA海外協力隊としてフィジーに滞在した倉橋税さん。そこで、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが助け合う「ケレケレ文化」に感銘を受けました。帰国後、高校教員となった後も「社会で生きづらさを抱える人の居場所をつくりたい」という思いが膨らみ続け、障がいのある方を中心としたグループホームの起業を決意します。

創業資金の相談に訪れた洛北ビジネスサポートデスクで、金村経営支援員から「ビジネスモデルを具体化させ販売戦略を考えることが大切」とアドバイスを受け、「地域に設置される障がいのある方向けの相談窓口と連携するこ

とで、利用者の確保にもつながった」と倉橋さんは振り返ります。

利用者目線で 付加価値を磨く

昨年8月、補助金や融資等を活用して堀川北山付近に「ケレケレの家 芝本」を開設。競合の多いグループホームですが、京都商工会議所の専門相談制度を活用したことで、「自社の強みや付加価値を見直すことができた」と話します。

ホームの各部屋は家具つきで和室もあり、我が家のようにくつろげる空間が広がっています。月に一度、利用者のリクエストに応える献立や、庭で育てたサツマイモをみんなで収穫するレクリエーション等で、利用者の満足度は

上々。起業から1年半で4棟を市内に展開、10代から60代まで23人が共同生活を送っています。

ワークライフバランスに 配慮した職場づくり

福祉業界では人手不足が大きな課題です。補助金を活用してスタッフのスキルアップ研修に力を入れるほか、ライフスタイルに合わせた週休3日制やリモートワークも導入。今後はIT化を進め、「働きやすい環境を整え、サービスの質をさらに高めていきたい」と倉橋さんは語ります。

障がいのある方が自分らしく、幸せに暮らせるインクルーシブな社会を目指して、「ケレケレの家」には、今日もにぎやかな笑い声が響きます。



「ケレケレの家 芝本」での夕食の様子。利用者同士が交流できるリビングが憩いの場となっている。



経営のご相談は
お近くのBSD
(ビジネスサポートデスク)まで！



合同会社クロスリビング

京都市北区西賀茂鎮守菴町101

TEL 050-8893-0567

<https://kelekele-home.com/>